

世界自然遺産登録5周年
国立公園指定10周年記念

奄美・沖縄
子ども交流事業

子ども新聞

学び、深めた郷土愛

特別号



ピナイサーラの滝
ツアー



野生生物保護センターでの
環境学習



祖納集落 豊年祭へ参加



西表島小中学生との交流会



ナイトツアーで
夜の生き物観察



水牛車に乗り由布島へ

令和8年7月28日から31日までの4日間、奄美群島の中学生12名が西表島を訪れ、交流事業を実施しました。野生生物保護センターでの環境学習をはじめ、ピナイサーラの滝ツアーやナイトツアーなど、豊かな自然を体感するさまざまなエコツアーを体験。また、西表島の小中学生との交流会では、一緒に活動しながら交流を深めました。

奄美群島の中学生は、研修前に自分が住んでいる島と西表島の違いについて事前に学び、研修に臨みました。実際に西表島を訪れると、自然や文化の中に「違い」だけでなく、島同士の「共通点」もたくさん見つかりました。見て、聞いて、触れて、話して——。4日間の体験を通して、子どもたちは西表島の魅力を発見するとともに、自分たちが暮らす島の魅力も改めて見つめ直しました。

「真夏の大冒険 in 西表島」

喜界町立喜界中学校
3年 相良 香乃

① 心に残ったこと

私がこの研修中で印象に残ったのは2つあります。一つ目は、初めての体験だった水牛車に乗り由布島に行ったことです。私たちが歩くよりもゆっくりと進むため、リラックスできる時間でした。そして、三味線を弾きながら沖縄の島唄を歌ってくださり、喜界島の島唄との違いを楽しむこともできました。二つ目は、野生生物保護センターでの環境学習です。西表島にいる生物について詳しく掲示されており、様々な特徴を持つ生物にとっても興味湧きました。

② 学んだこと・気づいたこと

西表島が世界自然遺産に登録された理由の一つとして固有種と絶滅危惧種が生息しているからだ事前学習で知りました。実際に、西表島に行っからは固有種と絶滅危惧種の生き物がどのくらい生息しているのかや、どんなものを食べ生きているのかを学びました。特に印象に残っているのは絶滅させないための対策です。ゼブラゾーンや移動可能な看板などを用いていました。協力して自然や生き物を守ろうとしていたため、喜界島の今ある自然や生き物の残し方について考える機会になりました。

③ 自分の成長につながったこと

西表島小中学生との交流会で、奄美群島から来ている中学生は自分の住む島を発表する場面がありました。他にも、グループに分かれて奄美群島と西表島の相違点や共通点を話し合い、まとめる場面もありました。私はこの活動を通して二つ自分の成長に繋げることができました。一つ目は、表現力です。「どうすれば島の魅力が伝わるかな」と考えながら内容をまとめ、話し方も工夫しました。二つ目は、様々な意見を聞き、まとめる力です。グループ活動だと一気に意見が上がってきます。それを、分類して最後にはグループの意見として一つにまとめることが出来ました。この研修を通して身についた力を学校生活などにも活かしていきたいです。

④ これから、自分にできること

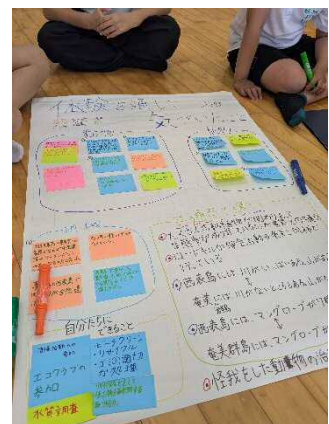
西表島での体験や交流を通して学んだことをそのままにせず、西表島に行ったからこそ改めて気づけた喜界島の魅力や強みをさらに知ってもらうために今回の研修のことを発表するなどの活動をしていきたいです。そこで特に伝えたいことは西表島で実際に行われている自然や生き物を未来に残すための対策方法を活かしたいということです。喜界島でも活用できるものを選び、取り入れ、豊かな未来への第一歩にしたいということです。幼いころから住んでいる故郷へ出来ることを考え、行動にうつしていきたいです。



▲水牛車で由布島から帰ってきている時の写真



▲移動式可能な看板の写真



▲グループ活動で意見を一つにまとめた時の写真